

長岡市埋蔵文化財調査報告書

上条遺跡Ⅱ

—上条高畠土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2016

新潟県長岡市教育委員会

例　　言

1. 本書は、新潟県長岡市上条町地内に位置する上条遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は、上条高畠土地区画整理事業に伴うものであり、上条高畠土地区画整理組合から委託を受けて長岡市教育委員会が実施した。
3. 遺跡確認試掘調査に要した費用は文化財保護部局である長岡市教育委員会が負担し、国庫・県費の補助交付金を受けた。本発掘調査に要した費用は原作者である上条高畠土地区画整理組合が負担した。
4. 遺物の注記は、2014年度の調査と区分するため、2015年度の15を記し、以下「上条+区+グリッド+遺構+層位+取り上げ番号」を基本として、必要に応じて項目を選択した。
5. 遺構番号は、混乱を避けるため、昨年度の調査で付けた番号に統いて遺構略号+701から番号を付け、今年度の調査全体の通し番号とした。B、C、D区で通し番号を付した。
6. 出土した遺物と調査に関わる資料は、すべて長岡市教育委員会で保管している。
7. 調査の体制は以下のとおりである。

(平成27年度)

調査主体	長岡市教育委員会（教育長 加藤 孝博）
事務局	長岡市教育委員会科学博物館（館長 小熊 博史）
調査担当	長岡市教育委員会科学博物館 主任 山賀 和也
発掘調査員	三ツ橋 勝（株式会社 大石組）
調査補助員	田辺 美子（　　）
現場代理人	林 茂夫（　　）

8. 本書の執筆は、第Ⅰ章、第Ⅱ章、第Ⅳ章を山賀、第Ⅲ章を三ツ橋が執筆し、編集は三ツ橋が行い、山賀がそれを統括した。

9. 本文中の北は真北を示す。

10. 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、下記の方々より多大なるご教示・ご協力を賜った。記して厚く御礼申し上げる。（五十音順・敬称略）

堅木 宜弘 笹澤 正史 上条高畠土地区画整理組合 佐渡市教育委員会（株）加賀田組

（株）竹中工務店（株）中越興業 高野不動産（株）上条町内会 高畠町内会

新潟県教育庁文化行政課 長岡市都市整備部都市開発課

目 次

第Ⅰ章 調査にいたる経緯 ······	1
第Ⅱ章 遺跡をとりまく環境 ······	2
第1節 遺跡の位置	
第2節 周辺の遺跡	
第Ⅲ章 本発掘調査 ······	3
第1節 調査区の設定	
第2節 調査の経過	
第3節 基本層序	
第4節 遺構の説明	
第5節 遺物の説明	
第Ⅳ章 まとめ ······	8
参考文献	

挿図・表目次

第1図 遺跡位置図	第2図 周辺の遺跡
第1表 遺物観察表	

図版目次

図版 1	調査区配置図・グリッド設定図・基本層序
図版 2	B区全体平面図
図版 4	B区個別遺構図 1
図版 6	B区個別遺構図 3・C区個別遺構図 1
図版 8	D区個別遺構図
図版10	C区出土遺物 2
図版12	調査写真 1
図版14	調査写真 3
図版16	遺物写真 1
図版 3	C、D区全体平面図
図版 5	B区個別遺構図 2
図版 7	C区個別遺構図 2
図版 9	B区出土遺物・C区出土遺物 1
図版11	D区出土遺物
図版13	調査写真 2
図版15	調査写真 4
図版17	遺物写真 2

第Ⅰ章 調査に至る経緯

調査に至る経緯

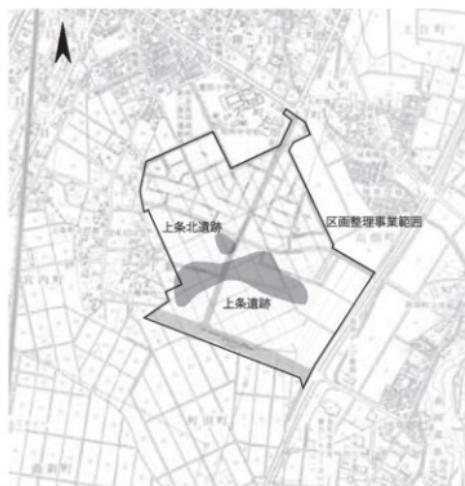
上条町では、上条高畠土地区画整理事業が計画され、長岡市教育委員会（以下、市教委と略称）は、平成24年10月に事業を所管する長岡市都市整備部都市開発課と埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行った。事業計画地には周知の遺跡は存在しないが、周辺に周知の遺跡が存在するため、未発見の遺跡が存在する可能性があることから、試掘調査を実施し、遺跡の有無を確認することとした。その結果、遺跡が発見された場合には、事業計画と照らし、取り扱いを協議することで合意した。

試掘調査は、平成25年5月9日付け長教博第62号で新潟県教育委員会教育長に調査着手を報告し、5月13日から24日まで調査を実施した（平成25年9月5日付け長教博第220号終了報告）。対象面積は約331,000m²で、調査トレーニングを任意に304ヶ所設定し調査を行った。その結果、地表面から20～50cm下で遺物包含層を確認し、土坑や溝といった構造も発見された。遺物は古代の土器類、須恵器などが出土した。これらの結果から平安時代の遺跡を2ヶ所で発見し、それぞれ上条遺跡、上条北遺跡として周知化した（平成25年9月5日付け長教博第219号）。

試掘調査の結果を踏まえ、事業者である上条高畠土地区画整理事業組合（以下、事業者と略称）と協議を行った。上条遺跡及び上条北遺跡の範囲は、商業施設エリアに広がっていた。商業施設エリアについては、詳細な開発計画ができていないため、計画が出来上がった段階で協議することとした。その一方で、遺跡にかかる道路部分については本調査が必要になるため、遺跡保護の観点から建設位置の変更等を協議したが、計画変更是困難で遺跡の現状保存が困難なことから、工事着手前の記録保存のための本発掘調査を実施することで合意した。本調査が必要な道路は2本で、それに合わせて調査区は大きく2ヶ所に分かることになり、総面積は930m²となった。

調査時期は、区画整理事業の進捗状況に合わせて、平成27年に実施することとした。

その後、事業者から市教委経由で新潟県教育委員会教育長に文化財保護法第93条第1項の規定による埋蔵文化財発掘の届出（平成25年9月26日付け）が行われた。それを受け新潟県教育委員会教育長は、事業者に対し平成25年10月2日付け教文第866号の2で工事着手前の本発掘調査の実施を通知した。そして、市教委は平成27年6月23日付け長教博第117号で新潟県教育委員会教育長に本発掘調査着手を報告し、調査を開始した。



第1図 遺跡位置図（1:15,000）

第Ⅱ章 遺跡をとりまく環境

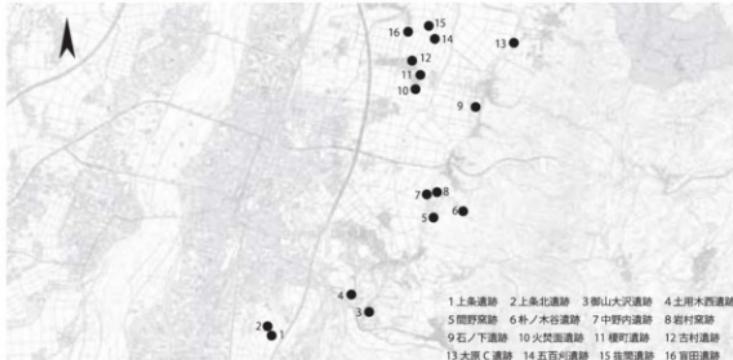
第1節 遺跡の位置

長岡市は、新潟県のほぼ中央部に位置しており、上条遺跡が所在する長岡地域は、その中央部を信濃川が縦断している。その両岸に沖積平野が広がり、沖積平野の両側には東頸城丘陵から派生する西山丘陵と魚沼丘陵から延びる東山丘陵が位置している。西山丘陵の周縁には信濃川によって形成された数段の河岸段丘があり、これらの河岸段丘は上流の中魚沼郡津南町から続く大規模の段丘である。東山丘陵は、標高700mを越える急峻な地形で、そこから信濃川に流れ込む柄吉川や椿桂川などの中小河川によって山裾に扇状地が形成されている。平野部は、信濃川によって形成された新潟平野の南端部に位置している。平野は、信濃川の自然堤防が発達した氾濫原となっており、その自然堤防上に多くの遺跡や、現在の集落が形成されている。上条遺跡もこれらと同じく自然堤防上に形成された遺跡である。

第2節 周辺の遺跡

東山丘陵沿いには縄文時代から古代の遺跡が数多く分布しているが、本遺跡は古代の遺跡であるため古代の遺跡を概観することにしたい。

信濃川右岸の古代の遺跡は、上条町周辺から見附市にかけての東山丘陵裾部とそれに近い沖積地内に遺跡が多く存在している。奈良時代の遺跡は少なく、平安時代に入ると徐々に増加し、9世紀後半にピークを迎える。奈良時代の様相ははっきりしないが、須恵器窯が4ヶ所存在している。間野窯跡は、8世紀前半に位置づけられる。間野窯跡からは、金属器の佐波理の椀や皿を模倣した土器が出土しており、官衙に供給されていた可能性があるが、供給先は現在のところ不明である。平安時代の遺跡は、近年発掘調査が行われており、その様相が徐々に明らかとなってきた。富島町では、9世紀に營まれた五百石遺跡、盲田遺跡がある。特に盲田遺跡では、皇朝十二銭、金属製の帶金具、漆器などの貴重な遺物が出土しており、官衙関連施設あるいは有力者が存在した集落と考えられる。悠久山の裾に位置する土用木西遺跡は、10世紀末から11世紀前半の遺跡で、平面積が110m²の三面に廂が付く大型の建物とそれに付属する建物が検出され、有力者の居宅と考えられている。



第2図 周辺の遺跡 (1:100,000)

第Ⅲ章 本発掘調査

第1節 調査区の設定

調査区は平成25・26年度の1次調査の部分をA区として、今回の調査をB区、C区、D区とした。グリッドはA区調査時において設定した世界測地系X=158070、Y=31610を基点に、1辺10mの大グリッドで南西(C区、D区)を網羅するよう西へAA～AQ、東へは変動することなくA～Sまで設定した。また南北方向に関してはA区の調査時に対応しており、南に1、2、3…21とした。さらに10mグリッド内に1辺2mの小グリッド25区画を組み、北西角を1とし、東へと番号を付けた。

第2節 調査の経過

平成27年6月22日から仮設準備、基準杭・グリッド設定、小屋設置、機材搬入。6月24日、B区の表土掘削を北～東へと開始。A区の調査に比べ遺物は少なく、遺物包含層となるVII層は本地区では薄い。7月7日まで包含層掘削、遺構検出を行ったところで、急進工事工程の関係からB区を一時中断し、C区の調査を優先することになった。表土掘削を開始し、包含層掘削、遺構検出を実施した。B区に比べ遺物の出土量、遺構密度は濃く、A地区的微高地が西へと続いているものと考えられる。遺構は畝状小溝群、土坑、ピットが検出され、掘立柱建物として確定できるピットはなかった。7月15日、高所作業車による全体写真撮影、7月16日に図面・個別写真を撮り終了した。その後B区を再開したが遺構は少なく、遺構検出、遺構掘削、図面、写真等を終え、8月4日にラジコンヘリによる空中写真撮影を行った。8月5、6日に東側の補足調査を行い、B区の調査を完了。道具、機材の移動、小屋の撤去等を行い、いったん現場調査を中断し、残すD区の調査開始日まで基礎整理作業を実施。10月2日よりD区の草刈、機材準備等を行い、10月5日に表土掘削を行った。調査区中央から東側に遺物が多く、包含層掘削、遺構検出、遺構掘削を順次行った。10月20日、ラジコンヘリによる全景写真撮影を実施し、その後、個別写真、測量等を行い調査は終了。11月4日に機材撤去、事務所、敷設板を撤去しすべての調査を完了した。

第3節 基本層序

調査地の現況は水田休耕地でありB～D区と調査区は離れているが、同一遺跡の範囲内にある。B区は微高地からやや外れた北側の緩傾斜地に位置し、C、D区はA区の微高地の延長上に該当するものと思われる。ただし微高地上に占地するA区の分層状況とは異なり、IV～VI層はここでは存在しない。概ね4層に分層され、遺構確認面は遺物包含層であるVII層直下である。B区の遺構確認面の標高は23.90～24.10mを測り、観察された基本土層からは、VII層が北に向かって薄くなる傾向にある。各層の境界は比較的に明瞭であった。C区の地形は東から西に向け僅かではあるが緩やかに上がる傾向があり、遺物包含層であるVII層の層厚に変化はない。遺構確認面の標高は23.90～24.00mを測る。D区はC区に隣接しており、それほど堆積状況に変動はないが、中央部が僅かに高く東西に向け緩やかに傾斜する。D区の遺構確認面の標高は23.60～23.80mを測り他に比べ最も低い。A区とC、D区間の試掘調査結果では遺構、遺物が検出されず地山が確認できなかったことから、浅い谷(窪地)が入る可能性もある。風倒木痕やカマ場、擾乱等の断面からは下面に平安時代以前の遺構、遺物の存在は確認されなかった。

第4節 遺構の説明

(1) B区 本区からは土坑4基、溝3条、畝状小溝群1群、ピット11基が検出されたが、他区に比べ遺構は極めて少ない。検出されたピットは建物跡として並ぶものはなかった。

SK743 2E22・23・3E3グリッドに位置する。東は調査区外となるため、全体を検出することができなかった。遺構の平面形は不整梢円形で確認された規模は、現存長径2.05m、短径1.50m、深さ0.14mを測る。覆土は褐灰色粘土を主体とし、炭化物も下層にレンズ状に堆積する。出土遺物はない。

SK745 3E16・21グリッドに位置する。遺平面形は梢円形で、規模は長径2.10m、短径0.75m、深さ0.75mを測る。覆土は灰色粘土を主体に、炭化物を含む。出土遺物は土師器無台椀が出土している。

SK747 4D4・9グリッドに位置する。平面形は不整形で、規模は長径1.50m、短径1.40m、深さ0.11mを測る。覆土は褐灰・灰色粘土を主体とし、炭化物を含む。出土遺物はない。

SK753 4D20・25グリッドに位置する。平面形は不整梢円形で、規模は、長径1.00m、短径0.80m、深さ0.07mを測る。覆土は灰色粘土を主体に炭化物を含む。出土遺物はない。

SD744 3D・3E・4D・4Eグリッドに位置する。平面形は、ほぼ南北にまっすぐ伸び、北端で東へとL字に曲がる。規模は、長さ9.3m、幅0.35～0.80m、深さ0.14mを測る。出土遺物はない。

SD755 4E・5Eグリッドに位置する。遺構の北側はP751に切られ、南側は調査区外となるため全体を検出することができなかった。主軸は概ね南-北方向であるがやや西偏する。確認された規模は、長さ6.70m、幅0.30～0.60m、深さ0.07mを測る。覆土は褐灰色粘土を主体に炭化物を含む。出土遺物はない。

SD760 6Iグリッドに位置する。SD767、SD773を切る。南は調査区外となるため全体を検出することはできなかった。遺構は概ね南-北方向に走る。確認された規模は、長さ4.90m、幅0.35～0.70m、深さ0.11mを測る。覆土は褐灰・灰色粘土を主体に炭化物を含む。遺物は土師器長甕が出土している。

畝状小溝群 (SD767～SD774) 6H・6Iグリッド、B区の東端に位置する。遺構はSD760、SD761、SD766、P758、P759に切られ、南、東、北側は調査区外となるため全体を検出することはできなかった。東側の空白部は遺構確認時に何度も精査をしたが、プランは確認できなかった。遺構は南東-北西方向に走り、平成25年度のA区で検出された畝状小溝群と主軸は同じである。検出された畝状小溝群の規模は、長さ13.50m、幅9.0m、溝間0.50～1.10m、各溝の規模は、長さ4.30～11.80m、幅0.30～0.50m、深さ0.05～0.15mを測る。覆土は概ね灰色粘土を主体に、炭化物を含む。出土遺物はない。

P751 5E2・7グリッドに位置し、SD755を切る。平面形は円形を呈す。規模は、長径0.75m、短径0.70m、深さ0.03mを測る。出土遺物はない。

P754 4D19・24グリッドに位置する。平面形は、円形を呈す。規模は、長径0.60m、短径0.58m、深さ0.07mを測る。出土遺物はない。

P759 6I18グリッドに位置する。平面形は円形を呈す。規模は、長径0.30m、短径0.30m、深さ0.08mを測る。出土遺物はない。

(2) C区 本区からは土坑4基、溝3条、畝状小溝群1群、ピット22基を検出した。他区に比べ、遺構密度は高く、検出されたピット数も多い。ただし建物跡として確定するには至らなかった。

SK706 8AK23・24グリッドに位置する。南は調査区外のため全体を検出することができなかった。西でP737を切る。平面形は不整梢円形と推定。確認された規模は、現存長径1.20m、現存短径0.25m、深さ0.14mを測る。覆土は褐灰色粘土を主体とする。遺物は土師器の細片が出土している。

SK717 8 AK12グリッドに位置する。北側は僅かに調査区外となる。平面形は梢円形で、規模は長径0.90m、短径0.45m、深さ0.18mを測る。覆土は褐色粘土を主体とする。遺物は、土師器無台椀（13）のほか、図示できなかつたが、内面黒色土器の小片も出土している。

SK722 8 AK11・16グリッドに位置する。平面形は不整梢円形で、確認された規模は長径0.85m、短径0.56m、深さ0.18mを測る。覆土は灰色粘土を主体とする。遺物は土師器長甕の細片が出土している。

SK730 8 AK6 グリッドに位置する。当初半分ほどを検出したが遺物が出土したことにより北へ拡張した。平面形は梢円形。確認された規模は長径1.25m、短径0.78m、深さ0.38mを測る。覆土は灰色・オリーブ色粘土を主体とする。遺物は非常に多く、土師器の無台椀（14、15、16）、須恵器の無台坏の細片、土師器の小甕（17）、土師器の長甕（18）、繩1点が出土している。

SD704 8 AJ・9 AJ グリッドに位置する。SD701～703を切り、南をP734に切られる。遺構の主軸方向は南西～北東方向に走る。確認された規模は現存長さ4.45m、幅0.20～0.45m、深さ0.08mを測る。覆土は褐色粘土を主体とする。遺物は土師器無台椀・長甕の細片、須恵器の長頸壺の底部（20）が出土している。

SD713 8 AK18・23グリッドに位置する。南側は調査区外となるため全体を検出することはできなかつた。主軸は南～北方向に走る。確認された規模は、長さ0.75m、幅0.25m、深さ0.07mを測る。覆土は褐色粘土を主体とする。遺物は土師器長甕の胴部片が出土している。

SD736 8 AJ グリッドに位置する。北は調査区外となるため全体を検出することはできなかつた。主軸は東～西方向に走る。確認された規模は長さ1.20m、幅0.30m、深さ0.08mを測る。出土遺物はない。

敵状小溝群（SD701～SD703） 8 AJ・8 AK・9 AJ グリッドに位置する。南は調査区外のため全体を検出することはできなかつた。遺構はSD704、P734、P735、攪乱に切られる。P705を切る。遺構は南東～北西方向に走る。検出された溝群の規模は、長さ6.75m、現存幅2.9m、溝間0.50～1.10m、各溝の規模は、長さ3.45～6.75m、幅0.15～0.38m、深さ0.04～0.07mを測る。遺物は土師器の長甕（19）が出土している。

P705 8 AJ16・17・21・22グリッドに位置し、SD703に切られるが、平面形は不整円形と思われる。規模は、長径0.85m、現存短径0.65m、深さ0.22mを測る。遺物は土師器無台椀の細片が出土している。

P708 8 AK18・23グリッドに位置する。平面形は不整円形を呈す。規模は、長径0.45m、短径0.40m、深さ0.11mを測る。遺物は内面黒色土器無台椀の細片が1点、須恵器無台坏の細片2点が出土している。

P714 8 AK17グリッドに位置する。平面形は不整円形を呈す。規模は長径0.70m、短径0.55m、深さ0.38mを測る。遺物は土師器無台椀（21）のほか細片が出土している。

P723 8 AK11グリッド、調査区の西端に位置する。平面形は、梢円形を呈す。規模は長径0.54m、短径0.45m、深さ0.35mである。遺物は土師器無台椀と長甕の細片が出土している。

P724 8 AK12グリッド、調査区の西端に位置する。平面形は不整円形を呈す。規模は長径0.58m、現存短径0.57m、深さ0.07mを測る。遺物は土師器無台椀の細片が出土している。

P726 8 AK12グリッドに位置する。平面形は梢円形を呈す。規模は、長径0.40m、短径0.30m、深さ0.08mを測る。遺物は土師器無台椀（22）が出土している。

P728 8 AJ22グリッドに位置する。平面形は不整円形を呈す。規模は直径0.32m、深さ0.14mである。遺物は須恵器無台坏の細片が出土している。

P729 8 AK6 グリッドに位置する。平面形は不整円形を呈す。規模は長径0.63m、現存短径0.55m、深さ0.28mを測る。遺物は土師器無台椀（23）や鍋の細片が出土している。

P731 8 AK6 グリッドに位置する。平面形は梢円形を呈す。規模は、長径0.68m、短径0.46m、深さ0.13

mを測る。遺物は土師器無台楕の細片が出土している。

(3) D区 C区に隣接しており遺構の存在する可能性は充分に期待された。土坑2基、溝4条、畝状小溝群1群、ピット2基を検出した。そのなかで畝状小溝群の占める範囲は広い。

SK775 6 AM22・23グリッドに位置する。南は調査区外のため全体を検出することはできなかった。遺構の平面形は不整円形と推定される。確認された規模は、長径2.05m、現存短径2.17m、深さ0.14mを測る。覆土は褐灰色粘土を主体とする。遺物は須恵器無台坏(47)、短頸壺(51)、土師器無台楕(48, 49)、小甕(50)、長甕(52~54)、鍋(55)が出土している。周囲の遺構から遺物が出土しないことや、遺物の出土状況から本遺構に廃棄された可能性がある。

SK778 8 AN13グリッドに位置する。平面形は橢円形。規模は長径0.92m、短径0.75m、深さ0.05mを測る。覆土は褐灰色粘土を主体とする。遺物は出土していない。

SD777 6 AM・6 ANグリッドに位置する。遺構の主軸は北北東-南南西方向に走る。確認された規模は長さ1.65m、幅0.20~0.30m、深さ0.04mを測る。覆土は明褐灰色粘土を主体とする。遺物は出土していない。

SD791 6 AM・7 AMグリッドに位置する。遺構の主軸はほぼ南-北方向に走る。確認された規模は、長さ2.70m、幅0.35~0.43m、深さ0.07mを測る。覆土は明褐灰色粘土を主体とする。遺物は出土していない。

SD792 6 AM・7 AMグリッドに位置する。SD791の東に隣接する。南は暗渠に壊される。遺構の主軸はほぼ南-北方向に走る。確認された規模は、長さ2.50m、幅0.45~0.55m、深さ0.08mを測る。覆土は明褐灰色粘土を主体とする。遺物は出土していない。

SD793 7 AMグリッドに位置する。北は調査区外となるため全体を検出することはできなかった。遺構の主軸はほぼ北に走る。確認された規模は長さ3.20m、幅0.30~0.40m、深さ0.05mを測る。覆土は明褐灰色粘土を主体とする。遺物は出土していない。

畝状小溝群(SD738、776、779~781、783、786~790) 5 AM・6 AM・6 AN・6 AOグリッドに位置する。遺構はSD717、SK787と暗渠に切られる。南と北は調査区外となるため全体を検出することはできなかった。西は僅かに窪地となり、東はSK777や溝の存在によりプランは確認できなかった。遺構は北北西-南南東方向に走る。検出された溝群の規模は、長さ15.00m、幅16.50m、溝間0.50~1.10m、各溝の規模は、長さ2.35~5.70m、幅0.40~1.15m、深さ0.05~0.17mを測る。覆土は概ね褐灰色粘土を主体に、炭化物を含む。遺物はSD776から土師器無台楕(56)が出土している。

第5節 遺物の説明

B~D区をとおして、遺物の出土量は少ないが、出土遺物は平安時代の須恵器食膳具、貯蔵具、土師器食膳具、煮沸具、石製品などが出土している。出土した須恵器はほとんどが佐渡小泊産とみられるが、一部阿賀北産とみられる須恵器も出土している。以下、区ごとに遺物の説明を行う。

(1) B区 遺構からの出土はほとんどなく、SK745、SD760から土師器の小破片が出土しているが微細なため図示できなかった。

遺構外出土遺物 1は須恵器坏蓋で平滑な内面や墨痕から転用硯と考えられる。扁平な疑宝珠や器形の特徴から9世紀後半から末頃の所産と考えられる。2、3は須恵器無台坏で、2は外面に墨痕が僅かに残る。4は土師器無台楕の底部で底径4.5cmと小さい。5、6は外面に突帯を横位に貼り付け、切込みが見られる。

5は切りこみ部分に欠損があるため、図上で復元した。両者は突帯付壺の5は肩部、6は底部に近い部分と考えられるが、いずれも細片のため詳細は不明である。突帯に見られる切り込みは、長岡市八幡林遺跡などから出土している耳の付く壺の耳を省略し、切り込んだものであろうか。接合はしないがA区の同様の土器と同一個体の可能性が高い。7の外面はカキ目を施し、内面は同心円當て具が当たられる。8、9は土師器の小甕で、8は口縁部が「ぐ」の字状に屈曲し、口縁端部は上方に屈曲する。10は土師器長甕で、口縁部が外側に大きく屈曲し、口縁端部は内側につまみ上げられる。11は砥石の欠損品で、上面と片方の側面に使用痕跡が見られる。12は木製品で両端部を切断加工し、側面を面取り（7面）し先細り状となる。栓の様な用途が考えられる。時期は不明である。

（2）C区

SK717 13は土師器無台椀の口縁部で、口径が11.0cmとやや小さい。

SK730 14～16は土師器無台椀である。14は口径10.3cmと小さい。器形等からいざれも10世紀前半頃の所産であろう。17は土師器小甕の口縁部で、外側にやや屈曲し、口縁端部は僅かに内側につまみ上げられる。18は土師器長甕の胴部で、外面は平行タタキを施し、内面は同心円文當て具を当たっている。

畝状小溝群 19はSD701から出土の土師器長甕の胴部で、外面は平行タタキを施し、内面は一部が格子状の當て具痕が見られる。

SD704 20は須恵器長頸壺で、外端設置する方形の高台が貼り付けられ、器壁は全体に厚い。

P714 21は土師器無台椀で底部回転糸切りである。

P726 22は土師器無台椀で立ち上がりが緩やかで口径は広い。内面には僅かに赤彩が見られる。

P729 23は土師器無台椀で口唇部から口縁部に油煙痕が見られる。灯明皿として利用か。

遺構外出土遺物 24は須恵器有台壺で外端接地する方形の高台部が貼り付けられている。25～27は須恵器無台壺である。28～30は土師器無台椀で、31は内面黒色土器の無台椀である。32は須恵器甕の胴部で外面は格子目タタキを施し、内面は平行當て具と同心円當て具の2種類を当たっている。33～35は土師器小甕で、33は口縁部が屈曲し端部は内湾する。36～40は土師器長甕で、36は外面は平行タタキを施し、内面は平行當て具を当たっている。37、38の口縁端部は内側につまみ上げられる。39、40の口縁端部は平坦であるが、内側にわずかにつまみ上げられる。41、42は土師器鍋で、41は口縁端部が上方につまみ出される。43は口縁部が短く、胴部は外に聞く形態で、内外面タタキの痕跡が見られ、須恵器模倣の甕である。44は土錐で両端部が欠損。45は砥石。46は軽石で、上端部が磨滅で平滑になっているが用途は不明。

（3）D区

SK775 47は、須恵器無台壺で、9世紀後半から末頃におさまるものと考えられる。48～50は土師器無台椀の底部である。51は須恵器の短頸壺で、4条の沈線が巡っている。胎土に粗粒の長石を多く含む特徴から阿賀北産と考えられる。52～54は土師器長甕で53は外面平行タタキに一部ヘラ削りを施し、内面は同心円當て具が当たられる。55は土師器鍋で口縁部が屈曲し、口縁端部は断面が三角形状を呈す。

畝状小溝群 56はSD776出土で土師器無台椀である。

遺構外出土遺物 57は須恵器無台壺である。58～61は底部が回転糸切りで、61の外面には僅かに赤彩が施される。62の外面は格子目タタキを施し、内面は平行當て具を当たっている。63は口縁部が僅かに屈曲し端部に向かって真っすぐ伸びる。64の外面は磨滅しわかりづらいが、平行タタキが施されている。

第IV章　まとめ

今回の調査では、9世紀後半から10世紀前半頃を中心とする遺構・遺物を検出した。これは、平成25・26年度に実施されたA区の調査で判明した遺跡の時期の中におさまるものである。そして、B区で検出された畠跡とみられる畝状小溝群は、A区で検出された畝状小溝群と軸が一致しており、A区からB区に広がっていることが判明した。しかし、A区で検出された遺構・遺物の量に比べて圧倒的に少なく、建物などの遺構は検出されなかった。特にB区とD区においては、畝状小溝群が検出されている以外に遺構はほとんど検出されなかった。以上の結果と試掘調査の結果を考え合わせると、今回の調査区は居住域から外れた地域で遺跡の縁辺部にあたるものと考えられる。

出土遺物は、須恵器と土師器が主体となり、わずかに砥石が含まれる。出土した土器の中には、阿賀北産の須恵器短頸壺(51)が出土している。これは、胎内市松山窯跡2号窯【伊東1997】から出土している短頸壺と形態が類似しており、9世紀初頭から前葉の所産とみられる【笛澤2014】。長岡市内におけるこれまでの古代の遺跡において阿賀北産の須恵器の出土は少ないが、上条遺跡から北へ約7kmのところに位置する盲田遺跡で折縁壺が出土しており、同じく9世紀前葉頃の所産とみられる。このことから、9世紀前半に、この地域に阿賀北地域の土器が少ないながらも流通してきていると言えよう。

A区の調査成果を合わせてみると、本遺跡は沖積地の微高地に位置し、建物と土坑・井戸・耕地が一体となっており、坂井秀弥氏がいう「住耕一体型」の「一之口型集落」の特徴と合致する【坂井1994】。東日本では、9世紀中葉から後半に、それまで営まれてきた集落の多くが衰退し、それに代わって「一之口型集落」が現れる。この地域でも、9世紀に有力だった盲田遺跡や五百刈遺跡が衰退し、それに代わるようになってきたのが本遺跡であり、東日本における集落の大きな変化に沿った動向と見ることができる。

参考文献

- 坂井 秀弥 1994 「『守と館、集落と屋敷—古代東国における館の形成—』『城と館を掘る・読む』山川出版社
- 坂井 秀弥 1996 「律令以後の古代集落」『歴史学研究』第681号
- 田中 靖 1996 「第IV章　まとめ」『和島村埋蔵文化財調査報告書第5集　門新遺跡－外割田地区－』和島村教育委員会
- 伊東 崇 1997 『松山窯跡発掘調査報告書』黒川村教育委員会
- 田中 靖 2003 「第V章2　出土土器について」『和島村埋蔵文化財調査報告書第14集　下ノ西遺跡IV』和島村教育委員会
- 春日 真実 2005 「越後における奈良・平安時代土器編年との対応関係について—「今池編年」・「下ノ西編年」・「山三賀編年」の検討を中心に—」『新潟考古』第16号 新潟県考古学会
- 笛澤 正史 2011 「第VII章2　古代の土器の時期と特徴」『新発田市埋蔵文化財調査報告第42　七社遺跡発掘調査報告書』新発田市教育委員会
- 笛澤 正史 2014 「V-1　丸山A遺跡出土土器の特徴と時期的位置付け」『新発田市埋蔵文化財調査報告第50　丸山A遺跡発掘調査報告書』新発田市教育委員会
- 長岡市教育委員会 2014 「平成25年度長岡市内遺跡発掘調査報告書」
- 鳥居 美栄 2015 『盲田遺跡』長岡市教育委員会

第1表 遺物觀察表

土器觀察表

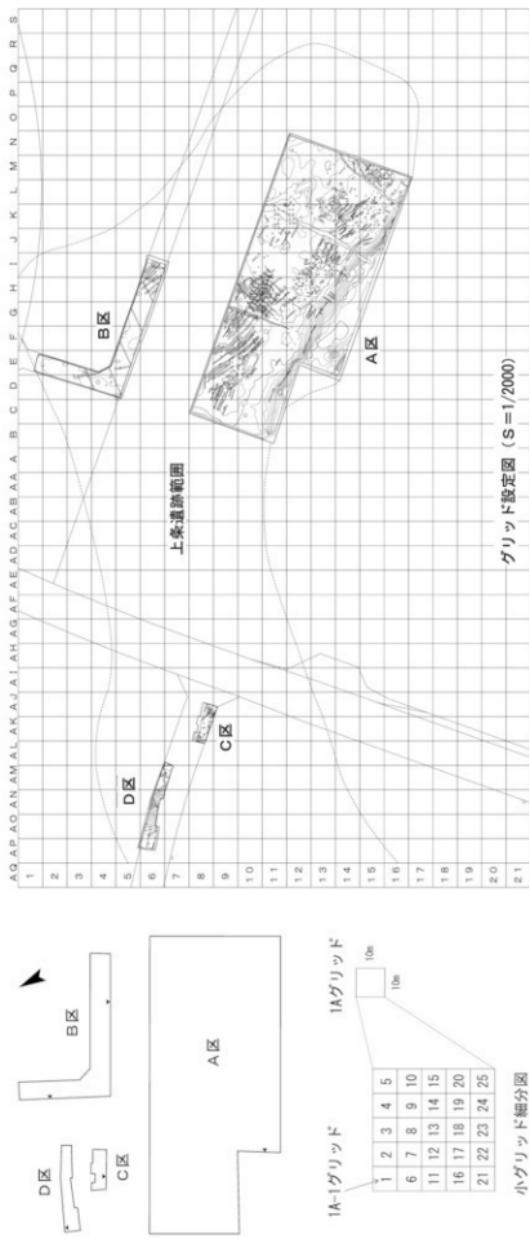
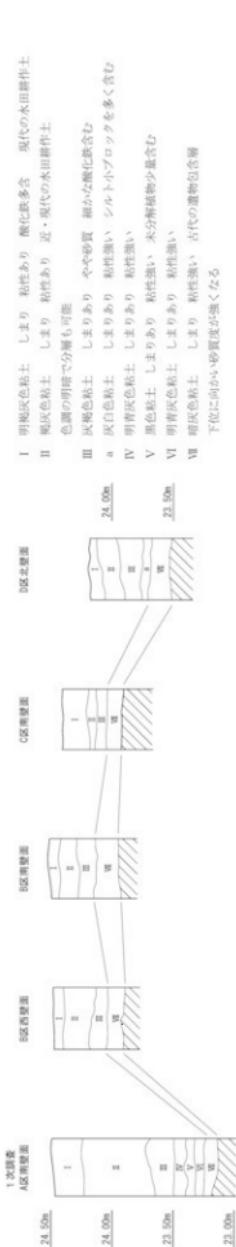
No.	区	グリッド	遺物名	部位	種別	基準	目録	遮蔽	断面	船	船底	船	船底	船外/内	調査等/外	調査等/内	備考	
1	B	6010	埴輪	埴輪	目録	遮蔽	-	(1.4)	長・白・砂	舟・内	灰白色	-	-	軸形	底板あり			
2	B	6010	埴輪	埴輪	目録	遮蔽	-	7.2	長・砂	舟・内	灰白色	-	-	軸形へ切り	底板あり			
3	B	6011	埴輪	埴輪	目録	遮蔽	-	7.4	長・黒	舟・内	灰白色	-	-	軸形へ切り	底板あり			
4	B	3821	集木棒	埴輪	埴輪	目録	-	4.5	(0.7)	長・黄・砂・黒	舟・内/底	灰褐色	断面により調査不明	軸形へ切り				
5	B	603	埴輪	埴輪	目録	遮蔽	-	(4.9)	長・砂	舟・底	灰褐色	舟・底	灰白色	軸形	底板あり			
6	B	6122	埴輪	埴輪	目録	遮蔽	-	(6.3)	長・黒・黒	舟・底	灰白色	-	-	軸形	底板あり			
7	B	603	埴輪	埴輪	目録	遮蔽	-	(9.1)	長・黒	舟・底	灰白色	-	-	舟・底	底板あり			
8	B	404	埴輪	埴輪	目録	遮蔽	12.6	(8.0)	長・黒・黒・黒	舟・底	灰白色	-	-	軸形	底板あり			
9	B	6010	埴輪	埴輪	目録	遮蔽	-	5.8	(2.9)	長・黄・砂・海	舟・内	灰褐色	-	軸形へ切り	内底板?			
10	B	6123	埴輪	埴輪	目録	遮蔽	-	19.2	(2.4)	長・黒	舟・底	灰褐色	-	-	軸形	底板あり		
11	C	84812	88717	1	土師器	陶輪	11.0	-	(2.1)	長・黒・砂	舟・内	灰褐色	-	-	平行タタキ	同心円当て具底		
12	C	84800	88730	1	土師器	陶輪	13.0	8.4	3.5	長・黒・海	舟・内	灰褐色	-	-	平行タタキ	同心円当て具底		
13	C	84888 - 7	88730	1	土師器	陶輪	12.0	4.8	3.9	長・黒・砂	舟・内	灰褐色	-	-	平行タタキ	底板へ切り		
14	C	84800	88760	1	土師器	陶輪	13.2	-	(4.2)	長・砂・黒・海	舟・内	灰褐色	-	-	平行タタキ	底板へ切り		
15	C	84800	88730	1	土師器	陶輪	11.8	(2.1)	長・黒・黒・砂	舟・底	灰褐色	-	-	平行タタキ	底板へ切り			
16	C	84888	88720	2	土師器	陶輪	-	(12.5)	長・長	舟・底	灰褐色	/舟・底	灰褐色	平行タタキ	同心円当て具底			
17	C	84888	88720	2	土師器	陶輪	-	(6.3)	長・長	舟・底	灰褐色	/舟・底	灰褐色	平行タタキ	同心円当て具底			
18	C	84721	88991	1	土師器	陶輪	-	(6.3)	長・長・黒	舟・内	灰褐色	-	-	平行タタキ	同心円当て具底			
19	C	84722	88704	1	土師器	陶輪	-	4.8	(4.7)	長・黒	舟・内	灰褐色	-	-	平行タタキ	同心円当て具底		
20	C	84817	PT714	1	土師器	陶輪	5.0	(1.2)	長・黒・黒	舟・底	灰褐色	-	-	平行タタキ	同心円へ切り			
21	C	84811	PT726	1	土師器	陶輪	14.0	-	(3.3)	長・黒・砂	舟・内	灰褐色	-	-	平行タタキ	内底に赤色		
22	C	84888	PT729	1	土師器	陶輪	-	(1.9)	長・砂	舟・底	灰褐色	-	-	平行タタキ	内底に赤色			
23	C	84888	PT729	1	土師器	陶輪	-	(2.1)	長・黒・黒	舟・底	灰褐色	-	-	平行タタキ	内底に赤色			
24	C	84820	88730	2	土師器	陶輪	-	6.8	(2.4)	白	舟・内	灰白色	-	-	平行タタキ	内底に赤色		
25	C	84821	88730	2	土師器	陶輪	-	(3.0)	長・砂	舟・内	灰白色	-	-	平行タタキ	内底に赤色			
26	C	84812	88730	2	土師器	陶輪	-	8.0	(0.8)	長・砂	舟・内	灰白色	-	-	平行タタキ	内底に赤色		
27	C	84815	88730	2	土師器	陶輪	-	7.6	(1.1)	長・砂	舟・内	灰白色	-	-	平行タタキ	内底に赤色		
28	C	84888	88730	2	土師器	陶輪	16.2	(2.9)	砂	舟・内	灰褐色	-	-	平行タタキ	内底に赤色			
29	C	84887	88730	2	土師器	陶輪	-	5.6	(2.1)	砂・海	舟・内	灰褐色	-	-	平行タタキ	内底に赤色		
30	C	84823	88730	2	土師器	陶輪	-	5.2	(1.0)	長・砂	舟・内	灰褐色	-	-	平行タタキ	内底に赤色		
31	C	84822	88730	2	土師器	陶輪	-	5.2	(1.3)	長・黒	舟・内	灰褐色	-	-	平行タタキ	内底に赤色		
32	C	84823	88730	2	土師器	陶輪	-	(0.1)	長・黒	舟・内	灰褐色	-	-	平行タタキ	内底に赤色			
33	C	84815	88730	2	土師器	陶輪	-	14.4	(6.3)	長・砂	舟・内	灰褐色	-	-	平行タタキ	内底に赤色		
34	C	84820	88730	2	土師器	陶輪	-	4.0	(2.0)	長・白・砂	舟・底	灰褐色	/舟・底	灰褐色	平行タタキ	内底に赤色		
35	C	84820	88730	2	土師器	陶輪	-	7.8	(1.8)	長・白・砂	舟・底	灰褐色	/舟・底	灰褐色	断面により調査不明	軸形へ切り		
36	C	84820	88730	2	土師器	陶輪	-	(8.7)	長・白・砂	舟・底	灰褐色	/舟・底	灰褐色	平行タタキ	平行当て具底			
37	C	84821	88730	2	土師器	陶輪	-	17.8	(5.6)	長・白・砂	舟・内	灰褐色	/舟・底	灰褐色	内底に赤色			
38	C	84811	88730	2	土師器	陶輪	-	20.6	(4.8)	長・長・黒	舟・内	灰褐色	/舟・底	灰褐色	内底に赤色			
39	C	84819	88730	2	土師器	陶輪	-	23.9	(4.3)	砂・黒	舟・内	灰褐色	/舟・底	灰褐色	内底に赤色			
40	C	84866 - 7	88730	2	土師器	陶輪	-	19.0	(2.1)	砂・黒	舟・内	灰褐色	/舟・底	灰褐色	内底に赤色			
41	C	84716	88711	2	土師器	陶輪	-	(9.0)	長・長・砂	舟・底	灰褐色	/舟・底	灰褐色	平行タタキ	平行当て具底			
42	C	84888	88730	2	土師器	陶輪	-	(6.3)	長・砂	舟・底	灰褐色	/舟・底	灰褐色	平行タタキ	平行当て具底			
43	C	84722	88730	2	土師器	陶輪	-	17.0	(0.4)	長・砂	舟・内	灰褐色	/舟・底	灰褐色	平行タタキ	平行当て具底		
44	C	84812	88730	2	土師器	陶輪	3.2	1.1	0.90	長・白・砂	舟・内	灰褐色	/舟・底	灰褐色	内底に赤色	軸形	3 mm	
45	D	748	88775	2	土師器	陶輪	-	11.8	7.0	2.9	舟・内	灰褐色	-	-	軸形へ切り			
46	D	84842	88775	1	土師器	陶輪	-	5.0	(2.1)	長・長・砂	舟・内	灰褐色	-	-	軸形へ切り			
47	D	84843	88775	1	土師器	陶輪	-	5.0	(1.1)	長・長・砂	舟・内	灰褐色	-	-	軸形へ切り			
48	D	748	88775	1	土師器	陶輪	-	5.0	(1.1)	長・長・砂	舟・内	灰褐色	-	-	軸形へ切り			
49	D	84843	88775	1	土師器	陶輪	-	5.0	(1.1)	長・長・砂	舟・内	灰褐色	-	-	軸形へ切り			
50	D	748	88775	2	土師器	陶輪	-	5.0	(2.2)	長・長・砂	舟・内	灰褐色	-	-	軸形へ切り			
51	D	748	88775	1	土師器	陶輪	-	(0.4)	長・長	舟・内	灰褐色	-	-	軸形へ切り				
52	D	748 - 3	88775	1 - 2	土師器	陶輪	25.4	(12.0)	長・砂	舟・底	灰褐色	/舟・底	灰褐色	平行タタキ	内底に赤色			
53	D	748 - 3	88775	1	土師器	陶輪	-	(10.0)	長・砂	舟・底	灰褐色	/舟・底	灰褐色	平行タタキ	内底に赤色			
54	D	748	88775	1	土師器	陶輪	-	(10.0)	長・砂	舟・底	灰褐色	/舟・底	灰褐色	平行タタキ	内底に赤色			
55	D	748	88775	1	土師器	陶輪	-	(10.0)	長・砂	舟・底	灰褐色	/舟・底	灰褐色	平行タタキ	内底に赤色			
56	D	84801	88776	1	土師器	陶輪	-	4.8	(1.0)	長・砂	舟・底	灰褐色	/舟・底	灰褐色	平行タタキ	内底に赤色		
57	D	64010	88776	1	土師器	陶輪	-	12.0	(2.0)	長・砂	舟・底	灰褐色	/舟・底	灰褐色	平行タタキ	内底に赤色		
58	D	64010	88776	1	土師器	陶輪	-	12.0	(2.0)	長・砂	舟・底	灰褐色	/舟・底	灰褐色	平行タタキ	内底に赤色		
59	D	64010	88776	1	土師器	陶輪	-	12.0	(2.1)	長・砂	舟・底	灰褐色	/舟・底	灰褐色	平行タタキ	内底に赤色		
60	D	64010	88776	1	土師器	陶輪	-	12.0	(2.1)	長・砂	舟・底	灰褐色	/舟・底	灰褐色	平行タタキ	内底に赤色		
61	D	64014	88776	1	土師器	陶輪	-	12.0	(2.1)	長・砂	舟・底	灰褐色	/舟・底	灰褐色	平行タタキ	内底に赤色		
62	D	64014	88776	1	土師器	陶輪	-	12.0	(2.1)	長・砂	舟・底	灰褐色	/舟・底	灰褐色	平行タタキ	内底に赤色		
63	D	64010	88776	1	土師器	陶輪	-	12.0	(2.1)	長・砂	舟・底	灰褐色	/舟・底	灰褐色	平行タタキ	内底に赤色		
64	D	64014	88776	1	土師器	陶輪	-	12.0	(2.1)	長・砂	舟・底	灰褐色	/舟・底	灰褐色	平行タタキ	内底に赤色		

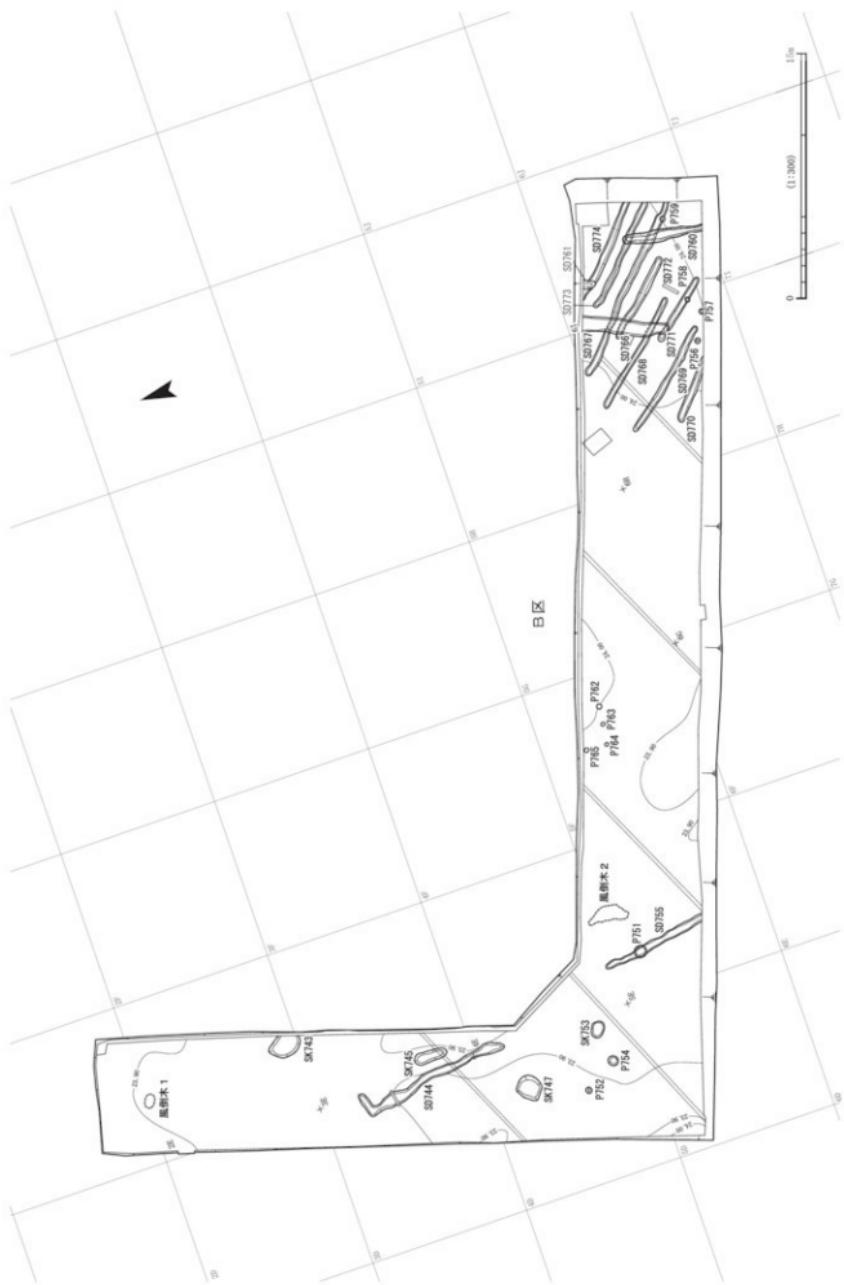
数字は残存値 (cm)

石製品觀察表

No.	区	グリッド	遺物名	部位	種別	基準	高さ	幅	備考								
11	B	3024	-	罐	瓶	瓶	3.8	3.4	3.4	3.8	3.4	3.4	3.8	3.4	3.4	左側面に擦り傷あり	
45	C	9432	-	罐	瓶	瓶	2.7	0.8	0.8	2.7	0.8	0.8	2.7	0.8	0.8	面取りがされている	
46	C	88419	-	罐	瓶	瓶	6.9	4.7	4.1	6.9	4.7	4.1	6.9	4.7	4.1	両側面に加工痕あり	

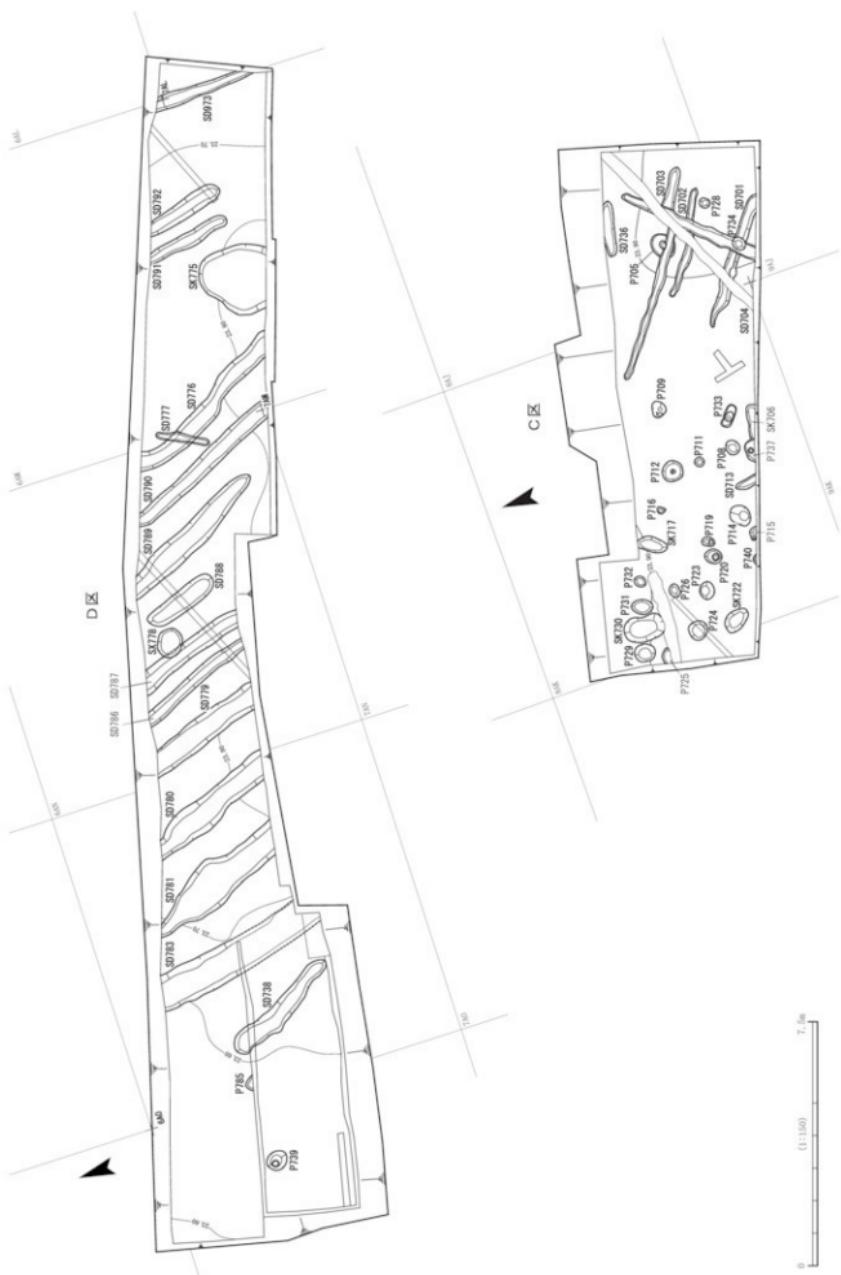
基本層序



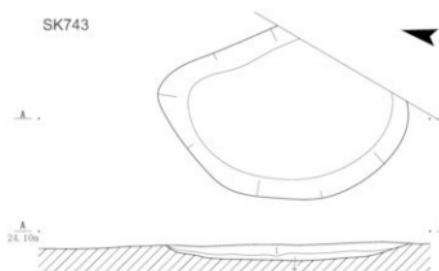


C・D区全体平面図

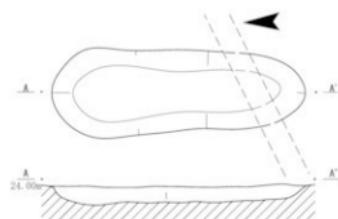
圖版 3



SK743

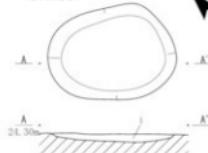


SK745



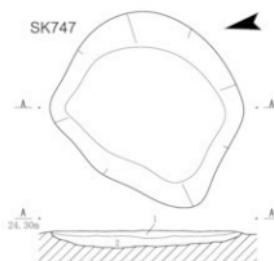
- 1 褐灰色粘土 しまり強い 粘性あり
炭化物を少量含む
- 2 灰色粘土 しまりあり 粘性強い
炭化物微量含む

SK753



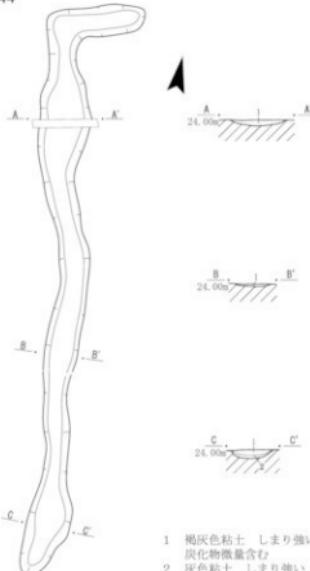
- 1 灰色粘土 しまりあり 粘性あり
炭化物を微量含む

SK747



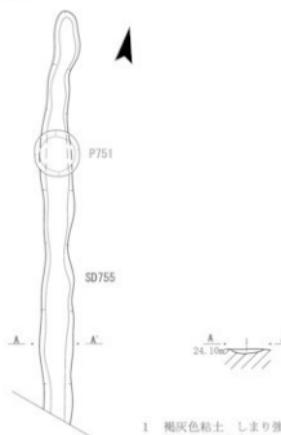
- 1 褐灰色粘土 しまり強い 粘性あり
炭化物を微量含む 壁層ブロック混在
- 2 灰色粘土 しまりあり 粘性強い
炭化物を微量含む 植物灰を含む

SD744



- 1 褐灰色粘土 しまり強い 粘性あり
炭化物微量含む
- 2 灰色粘土 しまり強い 粘性あり

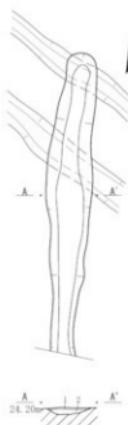
SD755



- 1 褐灰色粘土 しまり強い 粘性あり
炭化物を微量含む 田層ブロック混在

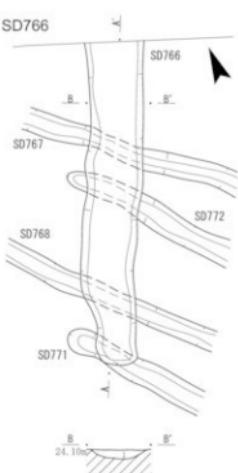


SD760



1 極灰色粘土 しまり強い 粘性あり
炭化物を微量含む
2 灰色粘土 しまりあり 粘性強い

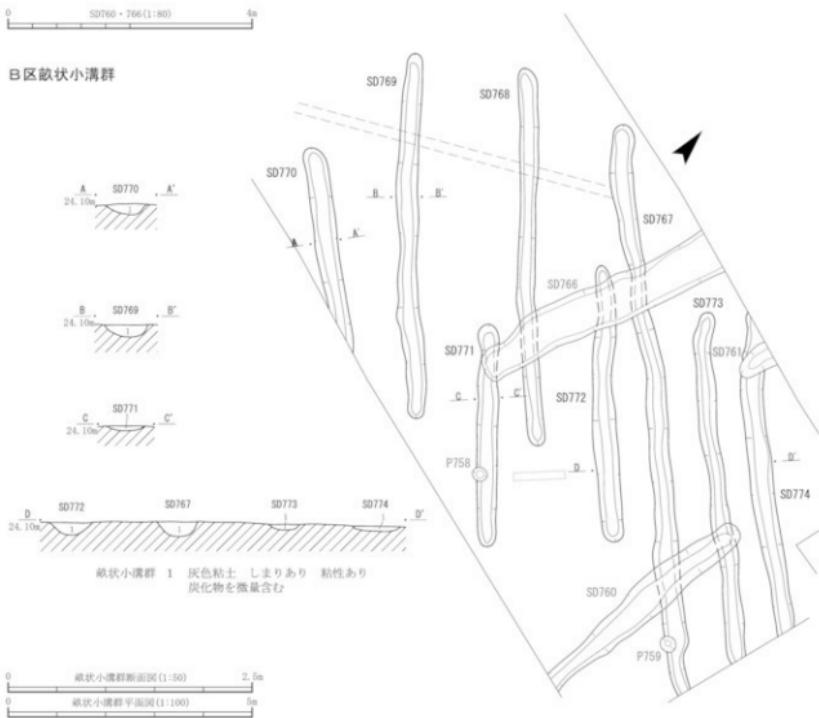
SD766

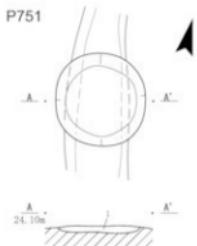


1 極灰色粘土 しまりあり 粘性あり
炭化物微量含む 灰色粘土ブロック
砂ブロック面在

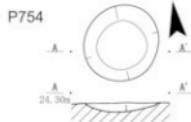
0 SD760 + 766(1:80) 4m

B区歫状小溝群

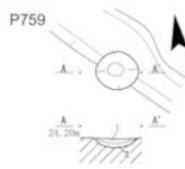




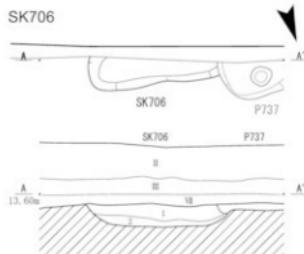
1 極灰色粘土 しまり強い 粘性あり
炭化物を微量含む 田層ブロック混在



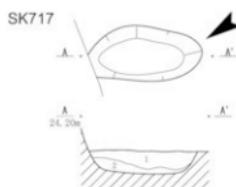
1 灰色粘土 しまりあり 粘性あり
炭化物を微量含む



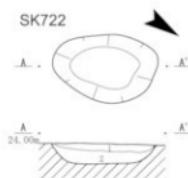
1 極灰色粘土 しまり強い 粘性あり
炭化物を微量含む
2 灰色粘土 しまりあり 粘性強い



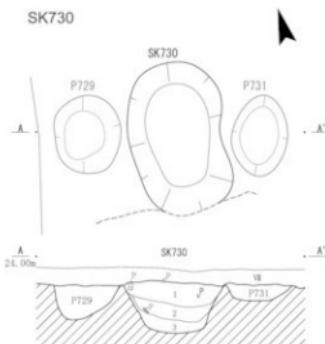
1 極灰色粘土 しまり強い 粘性非常に強い
炭化物を微量含む
2 灰色粘土 しまりあり 粘性強い



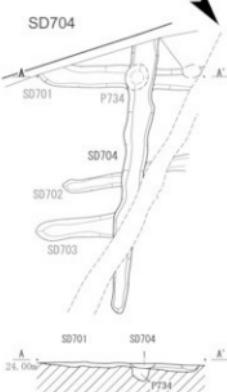
1 極灰色粘土 しまりあり 粘性あり
炭化物を微量含む
2 灰色粘土 しまりあり 粘性あり
炭化物を微量含む 砂混在



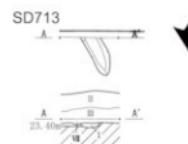
1 灰色粘土 しまりあり 粘性あり
炭化物を微量含む
2 灰色粘土 しまりあり 粘性強い



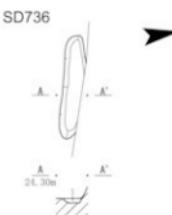
1 灰色・オリーブ色粘土 しまり強い
粘性あり 炭化物を微量含む
2 灰色粘土 しまりあり 粘性強い
炭化物を微量含む 壺器片多く含む
3 灰色粘土 しまりあり 粘性あり



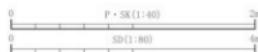
1 極灰色粘土 しまり強い 粘性あり



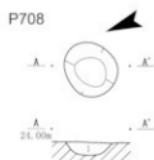
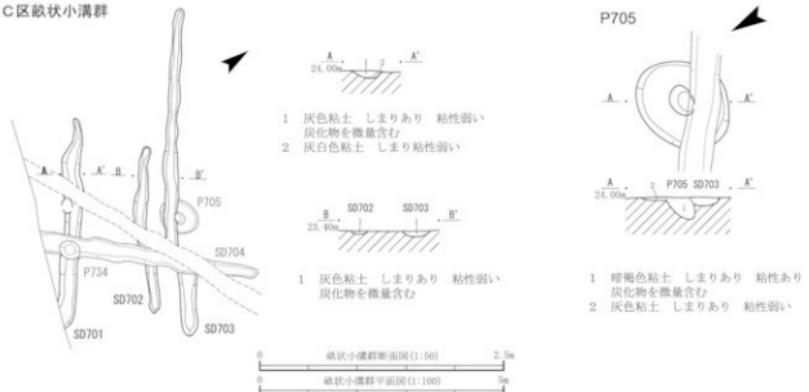
1 灰色粘土 しまりあり 粘性あり



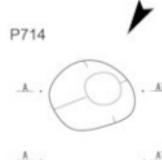
1 灰色粘土 しまりあり 粘性あり
炭化物を微量含む



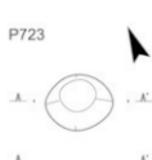
C区窓状小溝群



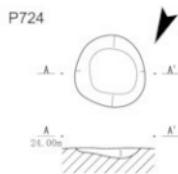
1 灰色粘土 しまりあり 黏性あり
炭化物を微量含む



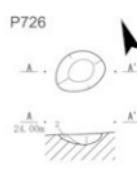
1 暗灰色粘土 しまり強い 黏性あり
炭化物を微量含む
柱底跡か?
2 暗灰色粘土 しまりあり 黏性強い
3 暗灰色粘土 しまりあり 黏性あり



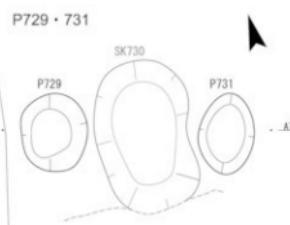
1 暗灰色粘土 しまり強い 黏性あり
炭化物を微量含む
2 灰色粘土 しまりあり 黏性強い
3 灰色粘土 しまりあり 黏性弱い



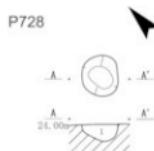
1 暗灰色粘土 しまり強い 黏性あり
炭化物を微量含む



1 暗灰色粘土 しまり強い 黏性あり
炭化物を微量含む
2 灰色粘土 しまりあり 黏性強い



1 灰色粘土 しまりあり 黏性あり
炭化物を微量含む
2 灰色粘土 しまりあり 黏性非常に強い

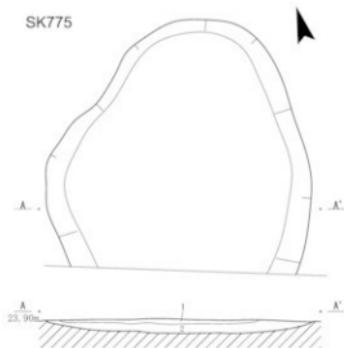


1 灰色粘土 しまりあり 黏性あり
炭化物を微量含む

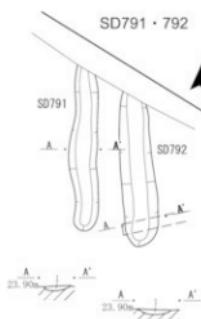
0 P(1:40) 2m

圖版 8

D区個別構造図

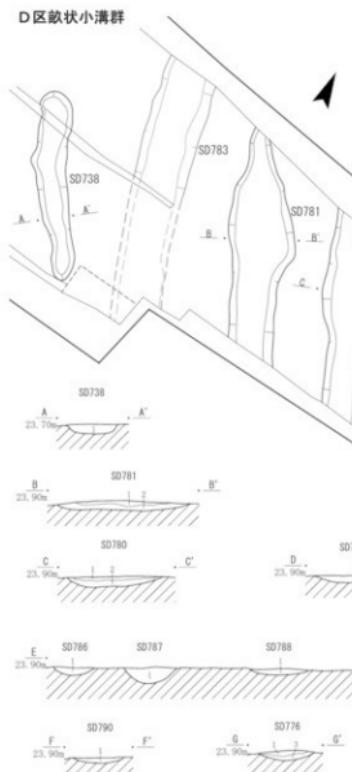


- 1 暗灰色粘土 しまりあり 粘性強い
シルトブロック混在

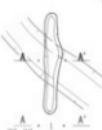


- 1 明褐色粘土 しまりあり
粘性あり 炭化物微量含む

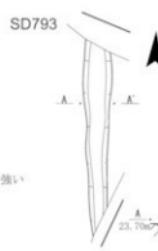
D区缺状小溝群



SD777



- 1 明褐色灰色粘土 しまりあり 粘性強い
シルト含む



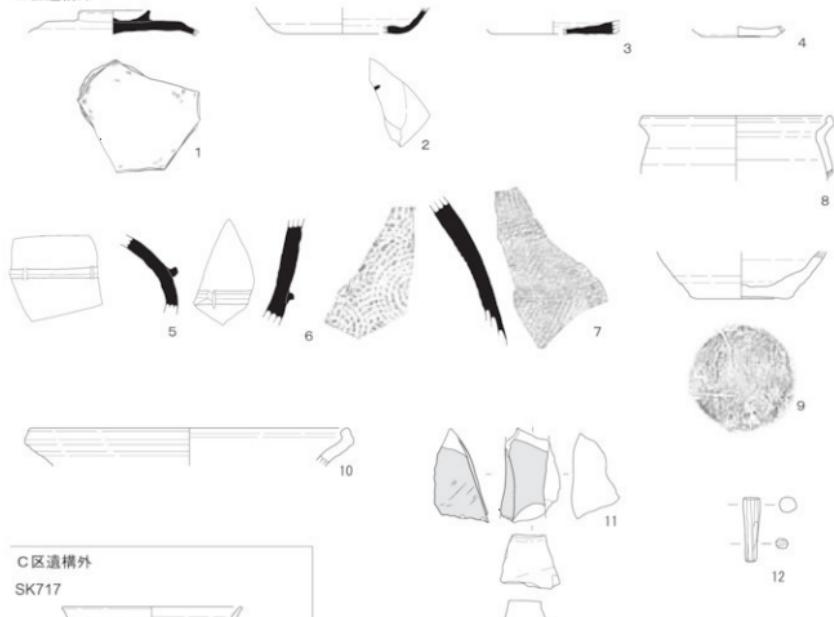
- ## 1 明褐灰色粘土 しまりあり 黏性強い

A horizontal scale from 0 to 20. The top half is labeled SK (1:40) and the bottom half is labeled SD (1:80).

1 暗灰色粘土 しまり強い 粘性あり
 シルトブロック混在 炭化物微量含む
 2 明褐色粘質土 しまりあり 粘性あり
 3 にぶい黄橙色粘土 しまり弱い 粘性弱い

0 篦状小溪群断面图(1:50) 2.5
0 篦状小溪群平面图(1:100) 5m

B区遺構外

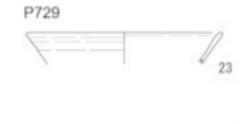
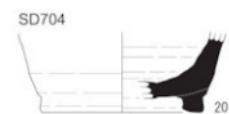
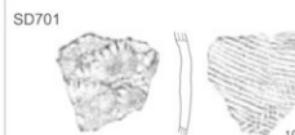
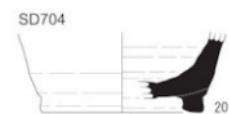
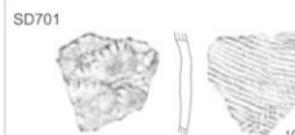


C区遺構外

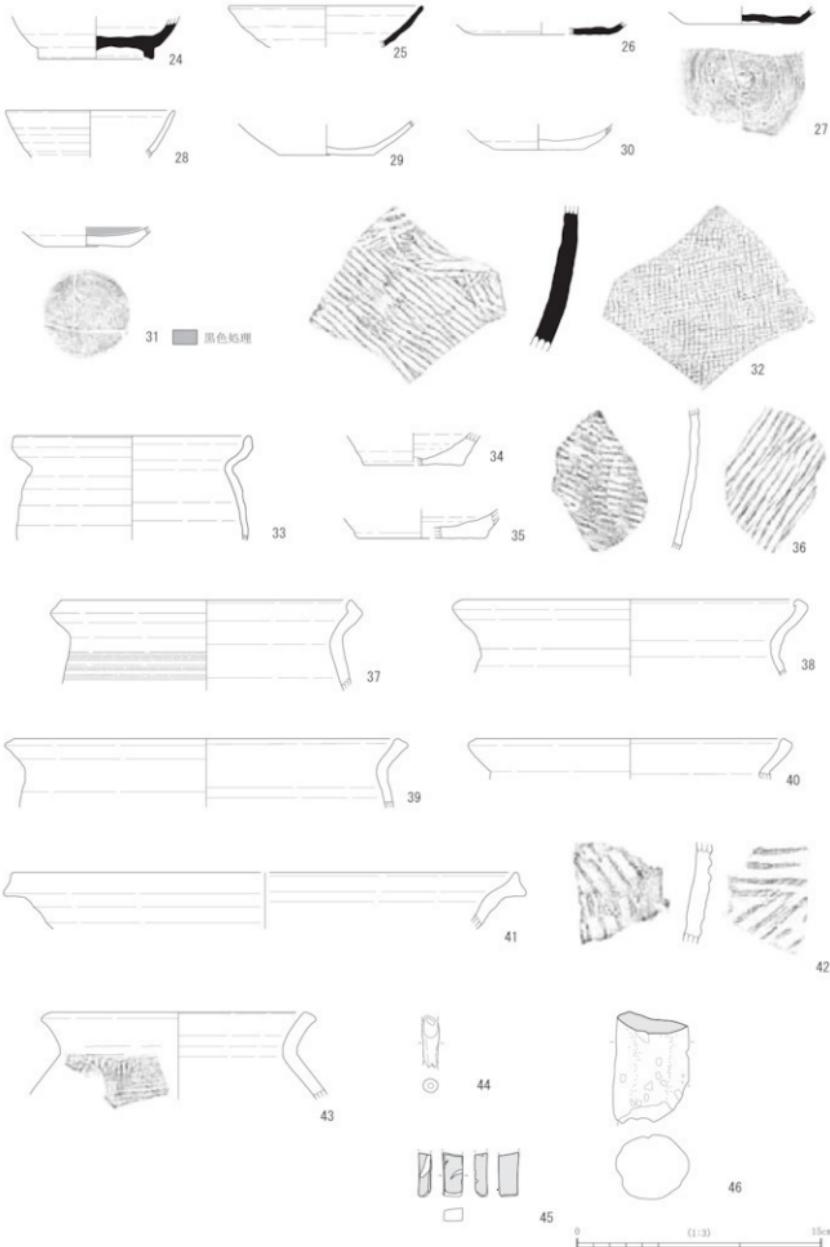
SK717



SK730

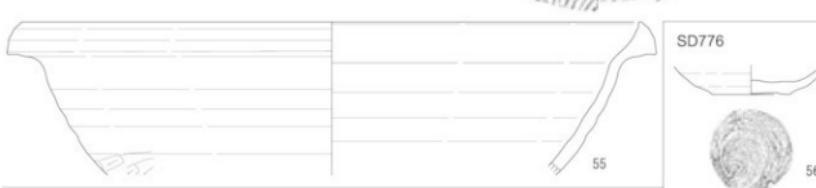
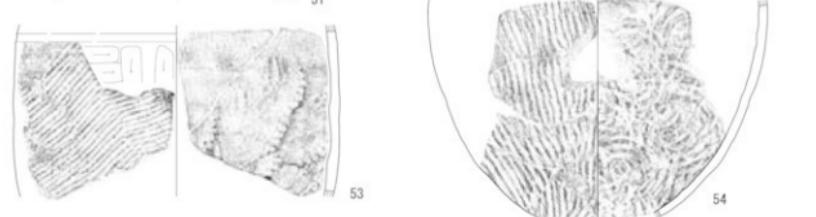
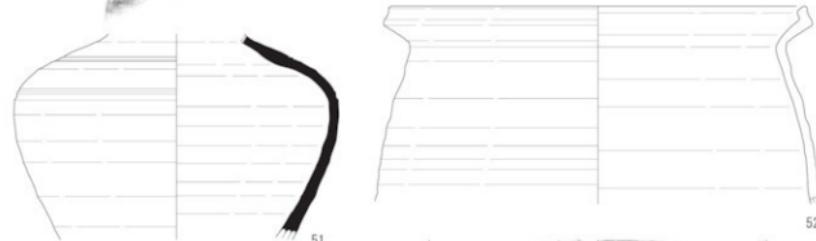
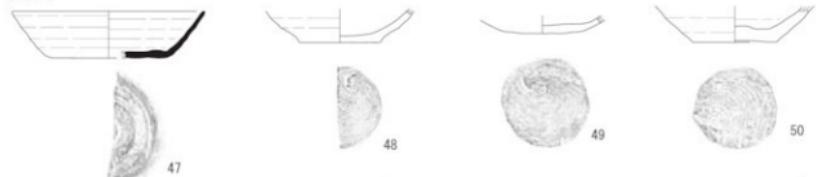


C区遺構外

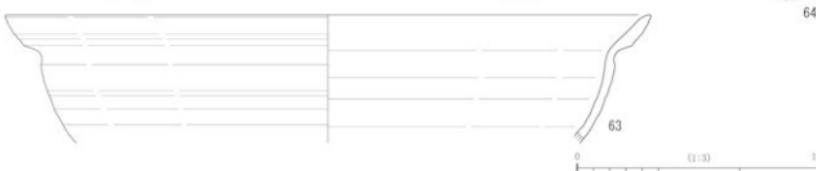


D区遺構内

SK775



D区遺構外





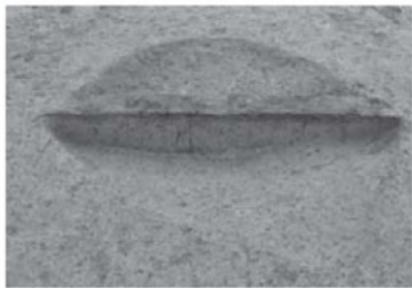
B区 全景写真 北から



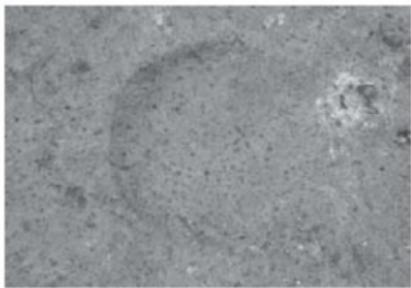
B区 SK743断面 南西から



B区 SK745完掘 西から



B区 SK747断面 西から



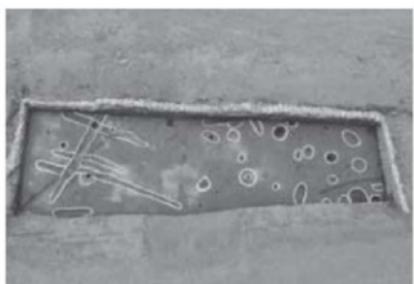
B区 SK753完掘 南から



B区 欽状小溝群完掘 西から



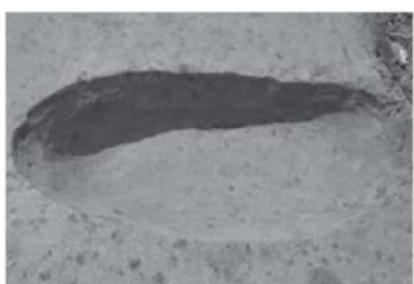
B区 包含層掘削 西から



C区 全景写真 北から



C区 SK706完掘 北から



C区 SK717完掘 南から



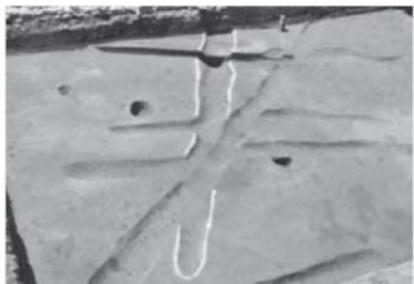
C区 SK722完掘 東から



C区 SK730断面 南から



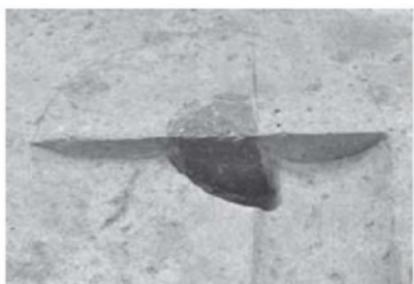
C区 SK730完掘 東から



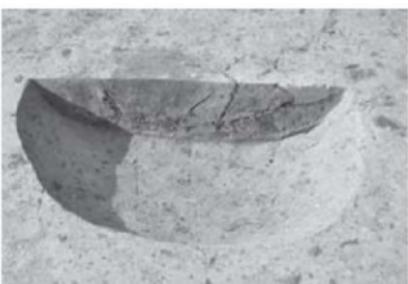
C区 SD704完掘 北から



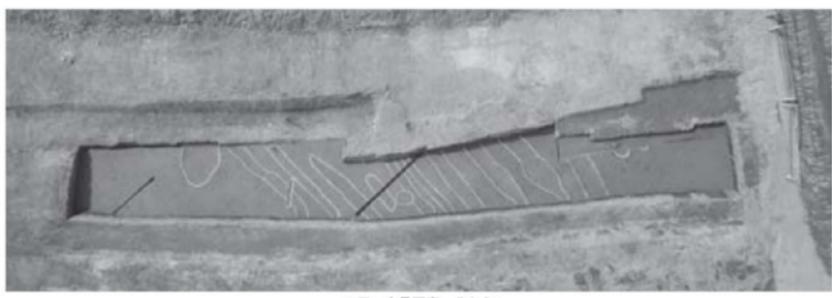
C区 SD736・歛状小溝群完掘 東から



C区 P705断面 西から



C区 P714断面 西から



D区 全景写真 北から



D区 SK775遺物出土状況 東から



D区 SK775完掘 東から



D区 SK778完掘 南から



D区 SD791(左)・SD792(右)完掘 南から



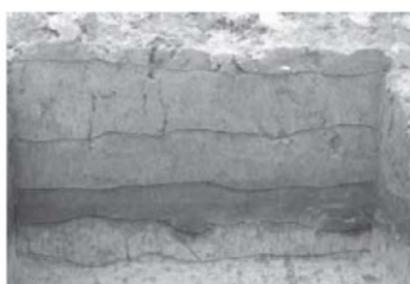
D区 SD793完掘 南から



D区 級状小溝群完掘 北から



D区 测量風景 東から



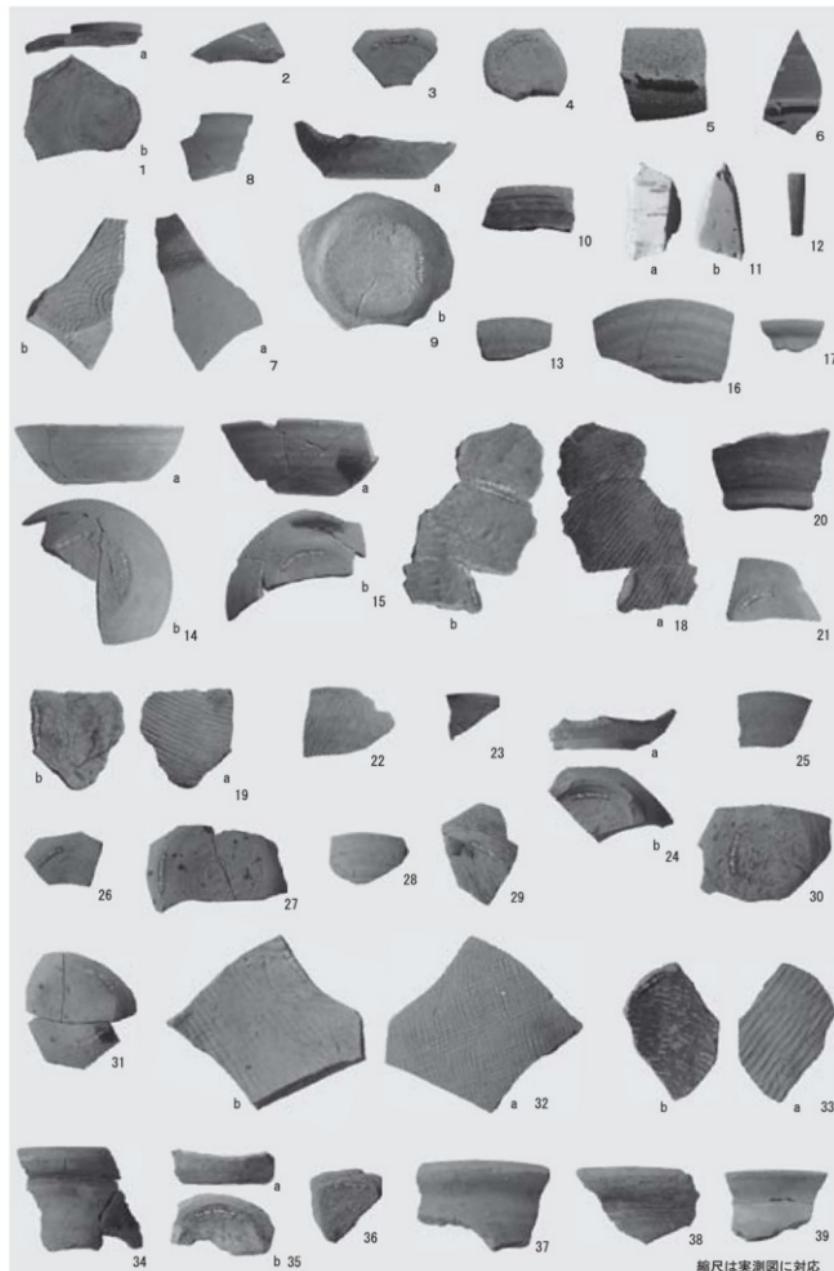
B区 基本層序南壁面 北から



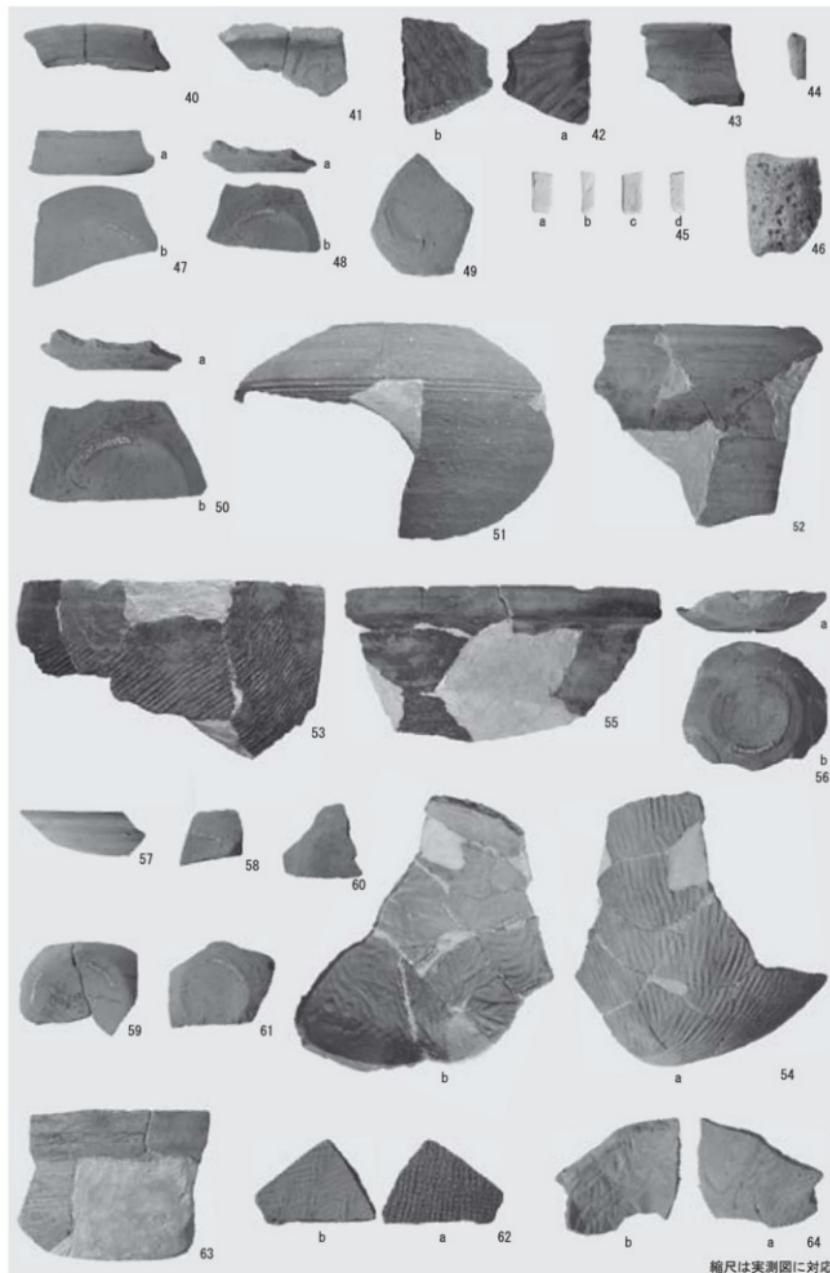
C区 基本層序南壁面 北から



D区 基本層序北壁面 南から



縮尺は実測図に対応



縮尺は実測図に対応

報告書抄録

ふりがな	じょうじょういせきに							
書名	上条遺跡Ⅱ							
副書名	上条高畠土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
翻著者名	山賀和也・三ツ橋勝							
編集機関	長岡市教育委員会・株式会社大石組							
所在地	〒940-0084 新潟県長岡市幸町2丁目1番1号 TEL0258-32-0546							
発行年月日	2016年3月11日							
所収遺跡	所在地	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
上条遺跡	新潟県長岡市 上条町	15021	1442	37° 25° 23°	138° 51° 30°	20150624 ~ 20151020	930m ²	土地区画整理事業
所収遺跡名	種別	主な時期	主な遺構	主な遺物			特記事項	
上条遺跡	集落跡	平安時代 (9世紀後半~ 10世紀前半)	竪状小溝群・ 溝・土坑・ ピット	須恵器・土師器・砾石			集落の縁辺部で 畠跡とみられる 遺構を検出。	

上条遺跡Ⅱ

上条高畠土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査報告書

平成28(2016)年3月11日 印刷

平成28(2016)年3月11日 発行

発行 新潟県長岡市教育委員会

印刷 あかつき印刷株式会社